

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】 (9月17日~9月29日分)

松下、CD から SD カードに録音 できるプレーヤーを発表

松下電器産業は、世界で初めて本体のみで音楽 CD から SD カードに録音できる携帯型 SD オーディオレコーダー「SV-SR100」を発表した。オープン価格で、2001年12月20日発売予定。

SV-SR100 は本体の CD プレーヤー部分に音楽 CD をセットすれば、ワンボタンで SD カードへの AAC フォーマットでの録音ができる。本体にはアナログ入力端子とマイク端子を装備しており、カセットテープやアナログレコードなどの音源からのデジタル録音や別売りのステレオマイクでのマイク録音も可能となっている。さらに本体上面の10キーを利用して携帯電話感覚で SD メモリーカードにタイトル入力も可能。

再生コーデックとしては MP3 と WMA にも対応。電源は単3形乾電池2本もしくは AC アダプタ。液晶画面には録音状態が簡単にわかるレベルメーター、録音時に SD カードのメモリー残量が確認できるメモリー残量バーグラフを表示できる。

(9/29)

松下、高速大容量化した第二世代 SD カードを発表

松下電器産業は、SDMI 規格に準拠し、世界最速のデータ転送レートと切手サイズメモリーカードでは最大容量の256MBと512MBのメモリー容量を実現した第二世代の SD メモリーカードを発表した。

今回発表された製品では既存の64MBまでのカードに比べ、書き込み、読み出しのデータ転送レートで5倍となる10MB/sの高速化を実現している。

256MB SD メモリーカード(品番: RP-SDH256)は2001年12月21日発売予定、512MB SD メモリーカード(品番: RP-SDH512)は2002年1月21日発売予定、いずれもオープン価格となっている。

なお、この発表にあわせて既存の64MBま

での SD メモリーカードの販売価格を2001年10月より見直すとしている。

(9/29)

三洋電機、録音機能付き携帯プレーヤーを発表

三洋電機は、世界で初めてセキュアマルチメディアカード(セキュアMMC)に対応し、パソコンを使わずとも音楽等を記録できる携帯型デジタルメモリーレコーダー『SSP-PD77R』を発表した。2001年11月21日発売予定、メーカー希望小売価格は43,000円(税別)。

SSP-PD77R は本体にMP3エンコーダーを内蔵し、他のオーディオ機器と光デジタルケーブルまたはアナログケーブルで接続することによって、パソコン無しでセキュア MMC に MP3 録音が可能となっている。録音時のビットレートは64/96/128kbps、サンプリングレートは44.1kHz。著作権保護は、SCMS 及び SDMI に準拠する。

また、音楽配信システム「ケータイ de ミュージック」に対応し、feel H[®](RZ-J90等)と付属の専用ケーブルにて接続して、DDI ボタンの音楽ダウンロードサービス「SoundMarket」が利用できる。著作権保護技術「UDAC-MB」を採用しており、「SoundMarket」対応プレーヤー型端末 feel H[®]『RZ-J91』やリモコンプレーヤー『RZ-RM1』とは互換性があり、相互にセキュアマルチメディアカードに記録された著作権保護付 MP3 ファイルを再生することができる。

さらに SSP-PD77R は再生コーデックとして WMA にも対応し、Windows XP に標準搭載される「Windows Media Player for Windows XP」の3倍モードの再生も可能。マイクロソフトの著作権保護技術 WDRM にも対応しており、音楽配信サービス経由で WMA 形式の楽曲の試聴・購入やデジタルメモリープレーヤーへの転送が可能となっている。

電池はガム型ニッケル水素電池を添付。USB 接続時にはパソコンから電源を供給され、そのまま充電もできる「USB 充電機能」を搭載。約6時間の連続再生が可能。なお、パッケージには64MBのセキュアMMCが付

属する。

(9/28)

MusicNet、配信プラットフォーム を完成

MusicNet は、ディストリビューションパートナー向け音楽配信プラットフォームの完成とプライベートテストの実施を発表した。

この配信プラットフォームは RealNetworks のサポートにより構築され、楽曲のストリーミングとダウンロードに対応。「RealSystem Media Commerce Suite」で提供されている著作権管理機能を備えている。さらに、PtoP のファイル共有、e コマースとしての業務レポート機能、アカウント・著作権管理機能、ユーザーサポート、先進的な検索機能など、多くの技術が含まれている。

MusicNet は、この配信プラットフォームにレーベル(コンテンツ)パートナーである BMG、EMI、Warner Music Group、Zomba から提供される楽曲を組み合わせ、ディストリビューションパートナーである AOL、RealNetworks に提供する。

また、MusicNet は限定的な運用テストを行う。このテストは2001年10月5日から30日間、報道関係やアナリストなど500名を対象に実施される。

(9/28)

NTT 西日本、無線 LAN アクセス 技術の実証実験を実施

NTT 西日本は、ホットスポットでの無線 LAN アクセス技術の実証実験「フレッツ・スポットアクセス」を実施すると発表した。

実験では、大阪の駅・ホテル・飲食店等のスポットにアクセスポイントを設置し、2.4GHz 帯無線 LAN を利用し地域 IP 網経由でインターネットへのアクセスを行うもの。この実験を通して、セキュリティ技術に関する検証、無線回線品質に関する検証、利用シーン等マーケティングを行う。

実験実施期間は2001年10月22日から2002年1月31日まで。実施場所は協力企業(キンコーズ・ジャパン、阪急電鉄、ホテル

阪急インターナショナル、新阪急ホテル、ロッテリア)が提供するアクセスポイント設置場所(梅田、心斎橋、日本橋等)周辺となる。

実験に当たって、2001年9月27日よりNTT西日本公式ホームページで1000名のモニターを募集する。モニターとなるには、大阪府内に在住または通勤・通学しており、NTT西日本フレッツ回線を契約し、指定のISP(@nifty、ASAHI ネット、BIGLOBE、DION、DreamNet、DS Networks、ILJ4U、InfoSphere、JENS SpinNet、OCN、Panasonic hi-ho、SANNET、ぶらら)と契約していることが条件となる。

アクセスを利用するための新たな料金などは発生しないが、アクセスポイントに接続可能なノートパソコンは自分で用意しなければならない他、アンケート調査への協力が求められる。

(9/28)

WIS、WIS-net を東急沿線から展開

ワイヤレスインターネットサービス(WIS)は、東京急行電鉄(東急電鉄)との業務提携を行い、月額料金1,980円の高速無線ブロードバンド接続サービス「WIS-net(ウィズネット)」を東急沿線から展開することを発表した。

今回の提携により WIS は、WIS-net のパックボーンに東急電鉄が有する鉄道沿いに敷設された光ファイバを利用し、駅及び駅周辺の建物等に無線ブリッジを設置、周辺約10km程度のエリアに対してサービスを提供する。この地域においては「WIS-net powered by 246-net」としてサービスを展開し、東急電鉄の246-netがインターネット接続に関するトラフィックの処理を行う。

発表と同時に、神奈川県川崎市宮前区、横浜市都筑区、青葉区、緑区の基地局募集を賃貸マンション、オフィスビルオーナー、マンション管理組合に向け大々的に行い、エリアを順次拡大していく予定としている。

なお、サービス開始スケジュールやサービス料金などは変わらない。

(9/27)

アイオーデータ、携帯型 EMD プレーヤー新機種発表

アイ・オー・データ機器(アイオーデータ)は、携帯型 EMD プレーヤーの新機種「MDM-H301(愛称:HyperHyde Hyblitz(ハイパーハイド ハイブリッツ))」を発表した。2001年10月上旬発売予定、メーカー希望小売価格は24,000円(税別)。

対応する圧縮フォーマットはWMA、MP3、AACの3種類。Windows XPに標準搭載される「Windows Media Player for Windows XP」の3倍モードにも対応している。著作権保護方式についてもDRMつきWMAコンテンツとLiquid Audio方式のAACの両方に対応している。メモリは内蔵64MBのみ。メモリーカードによる増設はできない。

電池は単4型ニッケル水素充電電池を添付。USB接続時にはパソコンから電源を供給され、そのまま充電もできる「USB充電機能」を搭載。充電時間は3.5時間で約4時間の再生が可能。なお、市販のアルカリ乾電池の利用も可能。

胸ポケットにも違和感なくおさまる小型サイズ、ストラップホールはやや大きめのサイズになっており、携帯ストラップのほかキーホルダーにも装着できるようになっている。

添付ソフトは「Liquid Player 5.4 for I-O DATA」、「Personal JukeBox」、「BeatBox」1.5、「Windows Media Player 7.1」の3種類、いずれもWindows版。

(9/27)

米 Microsoft、Windows XP のアドオンソフトを発表

米 Microsoft は、Windows Media Player 向けのデジタルメディアツールや3次元スクリーンセーバー、ゲームなど、Windows XPの機能を拡張する「Microsoft Plus! for Windows XP」を発表した。発売はWindows XPと同時の2001年10月25日、推定小売価格は\$39.95。

収録される主な機能は以下の通り。

デジタルメディアツール

・「Plus! Voice Command」 - Windows

Media Player を声で操作することができる音声認識機能

- ・「Plus! Speaker Enhancement」 - DSP 技術によるオーディオ品質向上機能
- ・「Plus! CD Label Maker」 - Windows Media Player のプレイリストと連携した CD ラベル作成ソフト
- ・「Plus! Personal DJ」 - カスタムプレイリストの自動作成機能
- ・「Plus! MP3 Audio Converter」 - MP3 から WMA へのコンバーター
- ・「Stunning new 3D visualizations」 - Xbox 向けゲームキャラクターが登場する Windows Media Player のビジュアルイゼーション

デスクトップビジュアルツール

- ・3次元スクリーンセーバー
- ・デスクトップテーマ

ゲーム

- ・「Hyperbowl Plus! Edition」
- ・「The Labyrinth Plus! Edition」
- ・「Russian Square Plus! Edition」

日本語版もこの内容に沿ったものになると見られるが詳細は未定。

【同日追加情報】日本語版も発表された。内容は変わらず、発売日はWindows XP日本語版と同じく2001年11月16日。価格はオープン(推定小売価格4,800円)。

(9/27)

アドテック、MAPIO に内蔵128MBを追加

アドテックは人気の携帯型プレーヤー、MAPIO に内蔵フラッシュメモリを128MBとした「AD-DMG128」を追加した。発売は2001年10月下旬予定、価格はオープン。

対応圧縮形式はMP3とWMA。スマートメディアスロットを装備し、128MBスマートメディアを利用することで最大256MBまで増設が可能。インターフェースはUSBを採用し、OSはWindows Me/98/2000/XP、Mac OS 8.6~9.2に対応する。

FSTN型3ライン液晶ディスプレイ(128x48ドット)を搭載し、ID3タグやファイル名を、ひらがな、カタカナ、漢字で表示

することができる。電源は単3アルカリ乾電池1本で約18時間の連続再生が可能。また、ボイスレコーダ機能も搭載されている。

今回のモデルでは新たに「MusicMatch MP3 JUKEBOX」が付属する他、ボディカラーがシルバーとなっている。また、WEB販売限定でボディカラーをレッドにしたモデルも予定している。

(9/27)

総務省、高速無線ネット接続のために準ミリ波帯域を開放へ

総務省は、情報通信審議会から「準ミリ波帯の周波数を利用する広帯域移動アクセスシステムの技術的条件」について答申を受け、100Mbpsを越えるネット接続を実現する25GHz帯の開放を発表した。

準ミリ波帯とは10GHzから30GHzまでの周波数帯で、今回開放された25GHz付近は、これまで未使用となっていた。

今回あわせて発表された利用イメージ及び技術的条件の概要によると、この25GHz帯付近の500MHz幅程度を24の無線チャンネルに分割、1チャンネルあたりの信号伝送速度を20Mbps以上とする。

屋外用途では、同時に送信できるチャンネル数を3までとし、OFDM(直交周波分割多重)方式を使って1チャンネルあたり36Mbps、最大で108Mbpsを実現する。

また、屋内用途には、同時送信チャンネル数を6までとし、OFDM方式を使って1チャンネルあたり70Mbpsの最大420Mbpsを実現する。

伝送距離は屋外向けの公共スペースに設置されたアクセスポイントでのインターネット利用、各家庭でのインターネットアクセスの手段としてのラストワンマイル利用で100m程度、アクセスポイント間の中継回線で500m程度、屋内向けの家庭内ネットワークで30m程度まで、オフィスなどのネットワークインフラとして100m程度までを想定している。

この準ミリ波帯の周波数を利用する広帯域移動アクセスシステムは、光ファイバのネットワークに容易に接続することを意識しており、総務省では、この答申を踏まえて、関係

省令の整備を行う予定としている。

(9/26)

BaySide Music、閉店を発表

NTT ソフトウェアが運営するオンラインショッピングモール「BaySide(ベイサイド)」内で提供していた有料音楽配信サービス「BaySide Music」が2001年10月20日をもって閉店すると発表された。

「BaySide」は、音楽や映像などのデジタルコンテンツや物品の販売を行えるショッピングモールとして1999年7月16日にオープン。同年7月27日には「SolidAudio方式」を採用した音楽配信事業の運用代行サービスを発表、同年11月19日より「BaySide Music」として有料での本格サービスを開始した。

「BaySide Music」で採用していた「SolidAudio」は、日本電信電話(NTT)と神戸製鋼所(神戸製鋼)が開発、1998年7月23日に発表したプロジェクトを基礎として展開していた規格。

音声/音楽の圧縮技術にはNTT ヒューマンインタフェース研究所が開発した高品質音楽圧縮技術「TwinVQ」を採用、神戸製鋼電子情報研究所が「TwinVQ」をDSPに実装し、超薄型ポリマー2次電池の採用などにより、カードサイズ(厚さ8mm強)、重さ45gという世界最小サイズ(当時)の携帯プレーヤーを作り上げた。

翌1999年2月23日には、固有ID付きメディアを用いたコンテンツ保護流通方式「InfoBind(インフォバインド)」を発表、「SolidAudio Player」とNTTの情報流通プラットフォーム「Infoket(インフォケット)」に組み込み、固有ID付きスマートメディアを用いることで著作権保護に留意した音楽配信サービスのインフラを整えた。

その後、1999年7月30日にハギワラシコムより神戸製鋼からOEM供給を受けた「SolidAudio Player SD-1」が発売、以後、日立マクセル、富士フィルムアクシア、東芝などから対応プレーヤーが発売されていた。

今回の閉店に至った理由や経緯などについて

は触れられていない。なお、BaySideでは、物販サイト「BaySide Promenade」を2001年9月28日に、ビジネス・書籍など情報ダウンロードサービス「BaySide Library」を2001年10月20日に閉店することも合わせて発表している。

(9/26)

WIS、月額1,980円の無線常時接続サービスを発表

ワイヤレスインターネットサービス(WIS)は、自社で提供する2Mbpsの高速無線ブロードバンド接続サービス「WIS-net(ウィズネット)」を月額料金1,980円でサービス開始することを発表した。

WISは、これまで首都圏においてマンションなど集合住宅の屋上に基地局を設置し、基地局周辺400mのエリアに対して無線サービスを提供してきた。今回、無線機器の伝送距離と制御方式に関して改良を図り、伝送距離を従来の半径400mから800mにまで伸ばし、一つの基地局からカバーできる範囲を一挙に4倍に増やすことで、より安価な高速常時接続サービスの提供が可能となった。

サービス料金は月額利用料が1,980円、機器使用料が770円。初期費用は加入手続料が5,000円、機器設置工事費用は別途必要だがユーザーの自己取付の場合は無料となっている。

サービス提供エリアは首都圏を皮切りに必要の見込まれる地域から順次サービスを展開する計画。仮申し込みはWISのWebページ上で2001年10月1日より開始する。実際のサービス開始は2001年11月1日より。1エリア当たりのサービス提供可能ユーザー数は512。想定される1エリア内の世帯数は12,000としている。

なお、サービス開始に伴い、WISは優れた通信インフラの確保によるサービス強化を図るため、エヌ・ティ・ティ エムイー(NTT-ME)との業務提携を行った。この業務提携によりWISは、WIS-netのバックボーンにNTT-MEが提供する超高速・広帯域光ファイバー通信網「XePhion」を利用すると共に、NTT-MEのブロードバンドサービス「WAKWAK」を「WIS-net powered by NTT-ME/WAKWAK」として、提供する。

さらに WIS では 11Mbps サービスに関してもモニター実験を開始し広帯域化への対応も図る。11Mbps のサービス料金は 3,000 円台を想定しているとしている。

(9/25)

MUSICMATCH、Mac 版の新バージョンを発表

MUSICMATCH は、同社の統合ミュージックソフトウェアの Macintosh 環境向け新バージョンとして「MUSICMATCH Jukebox Plus for Mac 2.5」を発表した。

新しい「MUSICMATCH Jukebox Plus for Mac」では新たに WMA に対応、幅広いフォーマットで音楽を楽しめるようになった。また、音楽 CD から MP3 ファイルへのリッピング速度も向上している。CD-R への焼き込み機能も Adaptec の Toast 経由で行うことができる。RCA/Thomson の Lyra、Creative の Nomad II、Iomega の HipZip といった MP3 プレーヤーへの転送機能も備え、スキンにも対応している。

MUSICMATCH Jukebox Plus for Mac は \$19.99 で同社サイトからダウンロード可能になっている。必須環境として G3 以上の Macintosh と MacOS 8.6 以降となっている。

(9/25)

米 RealNetworks、新プラットフォームを発表

米 RealNetworks は、デジタルコンテンツとユーザーをつなぐ新たな統合メディアプラットフォームとして「RealOne」を発表した。

プラットフォームの核となるプレーヤーソフトウェア「RealOne Player」は、同社の Real Player および Peal Jukebox を統合し、新たにメディア・ブラウザ機能を追加している。各種オーディオ、ビデオファイルの再生はもちろん、CD-R/RW の焼き込み機能や LiquidAudio などの DRM、Rio や Nomad などのデバイスへの転送機能も搭載する。既にサイトには Windows 用の Preview 版が公開されている。

RealOne プラットフォームは標準的なインターネット言語を用いており、Adobe や Macromedia のアプリケーションや Java や

HTML、perl など、さまざまな開発ツールやサービスとの互換性を確保しており、コンテンツ・プロバイダーはこれらのツールによって容易に自身の Web サイトにメディアコンテンツを統合することが可能となっている。また、RealOne プラットフォームは広範なオープン API のセットが公開され、さまざまなソフトウェア開発キット(SDK)によって拡張することができる。

RealNetworks では、同時に RealOne プラットフォームの支持を表明した企業 150 社を同時に発表した。

コンテンツ・サービス分野からは、ABC News、All Media Guide、AllFOOD.com、Animal Channel、AOL Latin America、Artist Direct.com、Bertelsmann、Business Daily、Business2.0、CBS.com、Citaris.com、Ciudad Internet、大和証券グループ、Discovery、E! Online、Echannels、Edmunds.com、El Foco.com、El Forte.com、EMI、EsMas.com、Feedroom、Film2.0、Fox、フジテレビ、Globo.com、Gorskys.Comedy、Grupo Imagen、ichoose.tv、InfoRed、Launch、LikeTelevision、MediaBay、MGM Studios、MLB Advanced Media、MovieFlix、MTV Europe、Multimedios Estrellas de Oro、Mural.com、MVS Multivision、NBA、New Line Cinema、ON24.com、Oxygen、PGA.com、Radio Click、Radio Formula、Radio Television Hong Kong、RadioAmp、Reforma.com、Signatures Network、Sonera、Sony Pictures Entertainment、Spin The Bottle、Starmedia Mexico、Starz Encore、StreamPower、Terra Networks Mexico、TeVe-de-mente.com、読売新聞、Tiscali、Todito.com、ToonsNFK、Trama、TV Azteca、Universal Music Group、UOL International、UrbanCinefile、Usina do Som、ビクターエンターテインメント、Virgin Radio、Weather.com、Wind-up Records、Xinhuanet.com、Zoom.tv。

オーサリングツール関連では、Adobe Systems、Anystream、Avid Technology、BeHere、Bromide73 Networks、Confluent Technologies、Globalstreams、I-NETwerks、iPIX、Macromedia、Media 100、Media Modeler、OPTX Int'l、Oratrix、Pinnacle Systems、Pulse Entertainment、RichFX、SofTV.net、Sonic Foundry、TechSmith、

Viewcast、Virage、Virtual Ink、WebEx、Winnov。

携帯デバイス関連では、Creative Labs、松下電器産業、Roxio、ソニー、SONICblue、Texas Instruments。

技術サポートでは、AsiaInfo Technologies、Audible.com、Cacheflow、Cisco、Compaq、Context Media、DiamondBack Vision、Electronics For Imaging (EFI)、Embratel、EMC/Bitcasting、Enounce、EZY-Tech、Giga Media、Golden Tech Group、Hewlett Packard、Hiwire、IBM、Infolibria、Inktomi、Intel、Jaguar Consulting、Lariat Systems、LearnKey、LightningCast、MeasureCast、Mercury Interactive、MusicNet、nCUBE、Network Appliance、PolyServe、Portal Software、Qsound、Reliacast、Rightsline、Shanghai On Line、Shenzhen Biao Digital Technology、Singingfish、Sun Microsystems、Syware Corporation、Vtuner、Webtrends。

さらに、RealNetworks では 60 日以内に会員制サービス「Goldpass」をより広く拡張した「RealOne Service」を開始することも発表した。RealOne Service は、RealOne プラットフォーム上に構築され、MusicNet からのメジャーレーベルの楽曲を含むデジタルコンテンツを提供する。ちなみに 2000 年 8 月に開始した「Goldpass」会員は既に 40 万名を越えているとしている。

(9/25)

イーアクセス、8Mbps ADSL サービスの導入予定を公表

イーアクセスは、高速 ADSL 規格「G.dmt Annex C」による下り最大速度 8Mbps のサービスの申込受付を 2001 年 10 月 1 日より ISP との合意がとれ次第順次開始すると発表した。

実際のサービス提供時期は、まず 10 月下旬から 11 月上旬にかけて約 350 電話局で開始し、11 月末までに現在 G.lite Annex C 規格でサービスを提供している全 473 電話局に拡大する予定。各々の具体的な電話局名は準備が整い次第発表するとしている。

なお、同時に8Mbpsのサービス開始を発表したASAHIネットについては、2001年10月1日より申込を受け付ける。

ちなみにイーアクセスは、2001年8月末時点で、個人向け21社、法人向け5社のISPに対してADSL回線の提供を行っている。
(9/21)

凸版印刷、デジタルコンテンツに特化した課金システムを開発

凸版印刷はデジタルコンテンツなど、低価格商品のオンライン決済に対応可能な独自課金システム「Check-bitway(仮称)」を開発したと発表した。

「Check-bitway」では、凸版印刷がクレジットカード会社との間で必要なユーザーの与信照会を一括して代行するため、デジタルコンテンツ販売事業者は低価格商品の販売ビジネスを効率よく実施することができる。また、商品データベースと決済、認証サーバを専用線で接続しており、個人情報のインターネット上への流出防止にも対応している。

さらに「Check-bitway」では、携帯電話、Palmハンドヘルド、ポケットPC、Linuxなど複数のOSや機種をサポートし、かつPDA端末上だけで決済およびコンテンツのダウンロードができるシステムとなっている。この仕組みは2001年11月にサービスイン予定の「モバイルBitway(仮称)」で実施するPDA端末を活用したデジタルコンテンツ販売から提供される。

今後の展開としては、PC、モバイル情報端末、店舗決済など、プラットフォームを拡大、物販への対応、企業に向けた課金システムの外販といったBtoBビジネスへの展開を予定している。
(9/21)

KDDI、次世代携帯電話サービスの展開方針を発表

KDDIは、次世代携帯電話サービスの概要とスケジュールを明らかにした。

それによると、次世代サービスとしてGPS信号による高精度な位置測定が可能な「gpsOne」が、64~144kbpsで提供されるミ

ージッククリップなどの「動画配信」、次世代言語XHTMLを採用した世界標準規格「WAP2.0」を柱としている。

その上で、2001年12月にまず、現在Javaサービス「ezplus」で用いている仕様をフェーズ2にバージョンアップし、サーバと端末との間での通信を行なえるようにするほか、「gpsOne」をベースとしたナビゲーションサービス「eznavigation」、「WAP2.0」対応、MPEG4規格の動画配信サービス「ezmovie」を導入する。同時に現在14.4kbpsで提供しているEZwebサービスを64kbpsへと高速化する。

次の段階として2002年4月1日より、最大144kbpsの高速データ通信を実現するCDMA2000 1xを全国主要都市で開始する。これに合わせて既にcdmaOneで提供していたgpsOne、動画配信、WAP2.0等の次世代サービスを順次高速化する。その際には1台の携帯電話でCDMA2000 1xとcdmaOneの両方に対応し、サービス開始当初から全国での利用を可能にする。

また、2002年秋を目処に2GHz帯を使ったサービスや現在実証実験中のデータ通信専用の「CDMA2000 1xEV(HDR)」を導入していくとしている。
(9/20)

毎日放送・JCB・松下電器、「1円」からの少額クレジット決済を開発

毎日放送、ジェーシービー、松下電器産業の運営するPanasonic hi-hoは三社共同で、インターネット上での1円からの少額クレジット決済を実現した課金システム「easy」(イージー:electric approval system)を開発したと発表した。

これまで少額課金のクレジット決済については利用者側の負担、販売会社側の決済に伴う処理コスト負担、カード会社の処理コストが大きい。従来は多くの売上が見込めないと利益を圧迫し採算が取れないとされていた。

今回開発された「easy」では、一定額までの利用を事前に一括してオーソリ取得する「タンキング方式」を採用。購入のたびに発生していたカード会社への承認取得のための

通信が不要となることで、加盟店およびカード会社の通信コスト負担を低減すると共に、利用者の決済時の待ち時間を短縮でき、スピーディーな少額コンテンツの購入が可能となっている。

具体的には、「3000円まで」あるいは「1ヶ月ごと」にオーソリを簡略化し、松下電器(hi-hoデータセンター)は、JCBなどが出資する情報処理センター「日本カードネットワーク(CARDNET)」のオンラインスイッチングセンターに接続し、毎月初回利用時に、一定限度額(3,000円)のオーソリゼーション(カード会社への利用承認)を取得する。以降、月内の利用累計が3,000円以内であれば、利用年度のオーソリ取得は不要となり、月内利用累計が3,000円を超えた場合、その都度3,000円のオーソリを実施する。売上は実際の利用分のみを1ヶ月分まとめて、カード会社へCARDNETのデータ伝送サービスを利用して送付する。

「easy」では決済システムに加えて著作権管理システムも提供し、デジタルコンテンツのダウンロード販売事業者に提供する。デジタルコンテンツの他にも「物販での決済」「月額固定決済」「動画ストリーミング配信での認証決済」等に対応。決済方法も「カードナンバー入力」と「ID・パスワード入力」の両方に対応できる。また、販売事業者の要望に応じて、課金システムのみ提供、顧客データベースの提供、WEBサーバの提供、カスタマーサービスの各システムを自由に組み合わせ、デジタルコンテンツの少額決済「easy」を含むECサイトの総合システムの構築が可能となっている。

なお、対応カードブランドはJCB、VISA、Master。
(9/20)

米 e.Digital と米 DataPlay、戦略的提携を締結

米 e.Digital Corporation と米 DataPlay は、包括的な戦略的提携を締結し、DataPlay メディアに e.Digital の特許技術と工業デザインを組み合わせた携帯型製品の開発と供給に関して合意したと発表した。

この合意に基づき、e.Digital は世界中で DataPlay メディアが様々な携帯機器で利用

できるようにエンジニアリングと技術開発分野で支援する。

一方、DataPlayはDataPlayのメディアやエンジンに関わる製品デザイン、技術のインテグレーション、アプリケーション開発についてOEMの顧客をe.Digitalに紹介する。

e.Digitalは、それらDataPlay対応製品のOEM顧客から、製品デザインや開発のNREフィーに加えてロイヤリティーも受けることになる。

(9/20)

STMicroelectronics、mp3PRO デコーダチップを開発

STMicroelectronicsは、新しいオーディオ圧縮規格mp3PROのデコーダチップを開発していると発表した。このチップは携帯型プレーヤー向けに2002年初めにはリリースされる予定。

mp3PROは最も普及しているオーディオ圧縮規格MP3を改良したもの。ほぼ半分のファイルサイズで同等の音質を実現し、下位互換性を保っている。

STMicroelectronicsはmp3PROの開発企業Coding Technologiesの協力の下、同社の24ビットDSPコア「MMDSP+」にmp3PROのデコーダアルゴリズムを搭載する。

既にソフトウェア記憶用のRAMを搭載した開発プラットフォームは完成しており、現在は装置メーカーと完成品に搭載するオプションの検証を行っている。サンプルは2001年末までにリリースできる予定。

チップの詳細仕様は未定だが、24ビットDSPコア「MMDSP+」にmp3PROデコーダプログラムを記録したチップ、DACで構成される予定。外部の構成部品はほとんど不要となる見込み。

(9/20)

ソニー、ネットワークウォークマンの新モデルを発表

ソニーは、メモリ内蔵タイプの「ネットワークウォークマン」『NW-E7』(内蔵メモリ64MB)及び『NW-E10』(同128MB)と、メモリスティック対応の『NW-MS11』を

発表した。いずれもオープン価格で、2001年10月21日発売予定。

NW-E7およびNW-E10は音声圧縮方式としてATRAC3に加えてMP3にも対応。記録媒体に内蔵メモリを採用することで、小型・軽量化(幅約27.8mm×高さ約92.4mm×奥行き約13.3mm(最大突起含まず)、本体質量約55g)のコンパクトな本体を実現している。本体側面には新開発の「ジョグレバー」を採用、早送り/早戻し、再生/停止といった操作が可能となっている。色はNW-E7がシルバーとブルー、NW-E10がチタンブルーのみ。

また、付属の専用USBクレードルにより、USB経由でのパソコンへの接続や内蔵電池への充電が簡単に行えるようになっている。内蔵充電電池による連続再生は約11時間。

NW-MS11は音声圧縮方式としてATRAC3のみの対応。128MBの「マジックゲート(MG)メモリスティック」が付属する。アルミニウムボディの側面には、楽曲情報などを表示する液晶画面と基本操作を行う「シーソーキー」を配置。本体カラーには高級感あるチタングレーを採用している。付属ガム型ニッケル水素充電電池による連続再生は約10時間。

いずれのモデルにも著作権保護対応アプリケーションソフトウェアとして、Windows XPにも対応した「OpenMG JukeboxVer2.2」が付属する。

(9/20)

マイクロソフト、Windows XP のパッケージ構成と価格を発表

マイクロソフトは、2001年11月16日の発売に向けて、「Microsoft Windows XP」日本語版(以下:Windows XP)の製品パッケージ構成と推定小売価格を発表した。

企業ユーザー向けのWindows XP Professionalには、通常版、アップグレード版(対象はWindows98以降)、特別アップグレード版(対象はWindows2000 Professional)、学生教職員向けのアカデミックアップグレード版の4つ。いずれもオープン価格だが、推定小売価格は通常版が35,800円、アップグレード版が23,800円、特別アップグレード版が15,800円、アカデミックア

ップグレード版が20,800円となっている。

家庭向けのWindows XP Home Editionには、通常版、アップグレード版(対象はWindows98以降)の2つ。いずれもオープン価格だが、推定小売価格は通常版が25,800円、アップグレード版が13,800円。

なお、Windows95以前のユーザーはアップグレードではなく、通常版を購入することになる。

(9/19)

TI、ポータブルオーディオプレーヤー向け省電力DAC発表

Texas Instruments(TI)は、携帯電話やMP3、AAC、WMA対応の携帯型デジタルオーディオプレーヤー、デジタルカメラ向けにオーディオ用デジタルアナログコンバーター(DAC)の新製品群「PCM177x」を発表した。

PCM177xファミリーは内部アンプがヘッドフォンアンプかラインアンプの2方式、フォーマット管理方式がソフトウェアかハードウェアの2方式があり、組み合わせで合計4種類の製品からなる。いずれもオーディオ処理の向上、バッテリー寿命の向上、サイズの縮小と言った携帯型オーディオ製品のデザイン目標に最適化している。電圧レンジは1.6~3.6V。16ピンのTSSOPもしくは20ピンのVQFNパッケージになっている。

PCM177xファミリーのサンプル出荷は2001年11月、量産出荷は同12月の予定。1,000個ロットでの1個当たりの単価は1.95ドル。

(9/19)

米e.Digital、初のDataPlay対応プレーヤーにTIのDSPを採用

米e.Digitalは、DataPlayメディアに対応したオーディオプレーヤーの最初のリファレンスデザインモデルにTIのDSPを採用したと発表した。このリファレンスモデルは2001年9月19日より日本で開かれるPC Expoで披露される。

e.Digitalが今回開発したリファレンスモデルはTIのTMS320C54xDSPをベースにし

ており、AAC、MP3、QDX、WMAの各フォーマットに対応する。インターフェースにはUSBを採用しており、DataPlayメディアに対してPCから楽曲ファイルを書き込むことができる。

また、InterTrustのDRM技術とDataPlayのContentKeyにも対応しており、DataPlayメディアを利用したコンテンツ流通やマーケティングに利用することが可能となっている。

さらに、TIのプログラマブルDSPを採用しているため、将来に渡って新たな機能を付加する場合や新しいオーディオ圧縮規格にも、簡単なソフトウェアアップデートで対応することができる。

(9/19)

松下、SD オーディオプレーヤーの新モデルを発表

松下電器産業は、小型メモリカード規格SDカードを採用したSDオーディオプレーヤーの新モデル『SV-SD80』を発表した。オープン価格で、2001年11月10日発売予定。

対応する音声圧縮方式にはAAC、MP3に加えて、SDオーディオプレーヤーとしては初めてWMAにも対応した。内蔵メモリはなく、SDカードスロットが1つ用意されている。

新LSIや新角形ニッケル水素電池の開発により、SDオーディオプレーヤーとして世界最小・最軽量(本体寸法 幅42.2x高さ41.6x奥行15.8mm、質量約38g 充電式電池含む)を実現している。

また、従来モデルに比べ約1/5の省電力を実現。それにより付属の新型ニッケル水素電池と別売パナソニック単4形アルカリ乾電池1本との併用で、約50時間の連続再生を実現している。

なお、PCとの楽曲ファイルのやりとりは、別売りのSDオーディオPCレコーディングキット(SH-SSK1 オープン価格 同時発売予定)に付属のソフトウェア「SD-Jukebox V2.3」とUSBリーダーライターを利用したSDカード経由となる。

(9/19)

米TIとRealNetworks、モバイル向けRealPlayerを発表

米Texas Instruments(TI)と米RealNetworks(Real)は、携帯電話メーカーおよび移動体通信事業者向けに、TIの携帯電話向けOMAPプラットフォームに最適化されたマルチメディアソフトRealPlayer Mobileを発表した。

OMAPプラットフォームは第2.5世代/第3世代携帯電話で事実上の標準となっており、携帯電話メーカーや移動体通信事業者はRealPlayer Mobileを利用することにより、バッテリー寿命やパフォーマンスを犠牲にすることなく、ユーザーにビデオもしくはオーディオストリーミングと言ったデジタルコンテンツを提供することができるようになる。また、Realでは配信側のシステムとなるRealSystem Mobileの版も合わせて発表した。

TIとRealは2001年1月にTIのDA250プロセッサとOMAPプラットフォームにRealのReal VideoおよびReal Audioを統合することを発表している。今回、両社はTIのOMAP710およびOMAP1510プロセッサにRealPlayer Mobileを最適化することで関係をより広く強固なものとした。

RealPlayer Mobileに対するサポートは2002年第1四半期から行われる予定。

(9/18)

ソニー、マルチエンタテインメント・ターミナル発売

ソニーは、一台でCD、MD、FM放送などの音楽や、テレビやDVDビデオの映像に加え、ハードディスクやメモリスティックを利用して音楽/映像を楽しみ、インターネットやEメールの利用もできるマルチエンタテインメント・ターミナル「ビットプレイ」『DMTPR1』を発売すると発表した。2001年12月1日発売予定、オープン価格。

DMTPR1は、40GBのハードディスクとDVD/CD-ROM一体型ドライブ・MDドライブ(MDLP対応)・マジックゲート(MG)メモリスティックスロット・TVチューナー・FMチューナー・モデム・デジタルアンプ等を内蔵した本体、専用15型TFT液晶ディスプレイ、及び2本のスピーカーで構成されたマルチエンタテインメント・ターミナル。

プレイ、及び2本のスピーカーで構成されたマルチエンタテインメント・ターミナル。

内蔵ハードディスクにはオーディオ専用エリアが設けられており、CDアルバム約300枚分(約5,000曲分)の音楽をジュークボックスのように保存可能。CDソフトのほかにも、「bitmusic」など対応音楽配信サービスからダウンロードした音楽コンテンツやWAVE、MP3、WMAの音楽ファイルを取り込むことも可能となっている。ハードディスクに記録された音楽コンテンツは、MGメモリスティックや、USB経由でネットワークウォークマンにチェックアウト(転送)し持ち運ぶことができる。

また、同じハードディスク内にビジュアル専用エリアを設け、内蔵の地上波テレビチューナーからの映像を約5時間記録したり、テレビ映像を記録しながら同時に最大30分までさかのぼって再生することもできる。

本体はCPUにCeleron(800MHz)、メインメモリ128MBを搭載し、Windows2000 Professionalで動作するが独自のメニュー画面が表示され、Windows画面は隠されている。高輝度15型液晶ディスプレイは1024x768ドットのXGA表示。トラックボール付きキーボードの他に専用リモコンも付属し、離れた距離からも簡単に操作が可能となっている。

アンプ部には、ソニーが開発したフルデジタルで音声信号処理を行う「S-Master デジタルアンプ」を搭載。また、5.1chサラウンドを2chスピーカーだけで仮想リアスピーカーの音場を創り出して立体音響を楽しめる、ソニー独自の高音質DSPによるデジタルシネマサウンドを採用しており、DVDの鑑賞にも利用できる。

インターネットへの接続用としては、56kbps内蔵モデムおよびブロードバンド対応として100BASE-TX/10BASE-T対応のネットワーク端子を装備。MD部に関してはNetMD未対応となっている。

なお、対応する音楽配信はWMT方式の音楽配信サービスで、圧縮形式にATRAC3またはWMAを用いたものとしている。

(9/17)

大日本印刷、コンテンツ流通プラットフォーム事業を開始

大日本印刷は、2002年初頭より、インターネットをはじめとしたネットワークを介したデジタルコンテンツの流通プラットフォーム事業「Dplats（ディープラッツ）」を開始すると発表した。

「Dplats」は、コンテンツ配信インフラやコンテンツ管理、著作権保護、課金・認証の収益回収システム、データ編集・加工などの基盤機能の提供だけでなく、プラットフォーム上で流通させるコンテンツの商品企画や表現方法などのアプリケーションの開発、利用顧客の購買情報をもとにした販売促進やマーケティングサービス、さらにはコンテンツ流通における新たなビジネスモデル開発までをトータルに提供する。

具体的な事業としては以下の3つを予定している。

1. 独自のコンテンツ販売サイトの運営事業
2. コンテンツホルダー・パートナー企業とのコラボレーションによる共同事業
3. 他社ポータルビジネスにおけるバックオフィス事業（プラットフォーム機能の提供によるコンテンツ販売代行）

このうち、第1弾として、「Dplats」のプラットフォームを利用し、独自に運営するコンテンツ販売サイト『AnyStyle（エニスタイル）』を構築する。

『AnyStyle』は「音楽」・「ゲーム」・「映像」・「エンタテインメント」・「教育・知育」・「出版」・「スポーツ」など幅広いジャンルの集客力の高いコンテンツを予定しており、プロモーションサイトを今秋より立ち上げ、2002年初頭より試験運用を開始、本格稼働は2002年春を予定している。

これまでも大日本印刷では、「ウェブの書齋」、「野書社」、「SSweb（エスエスウェブ）」などのサイトを通じて生活者向けのコンテンツ流通ビジネスを展開、「MediaGalaxy（メディアギャラクシー）」、「Mobile Galaxy（モバイルギャラクシー）」などのネットワークビジネスを通して多くのノウハウを蓄積してきているとしている。

(9/17)

【EMD.GR.JP コラム】 「NetMD の緩やかなインパクト」

ソニーから MD を EMD 対応のメディアとして扱う規格『Net MD』が 2001 年 6 月 27 日に発表された。対応製品も同 9 月 12 日に発表、12 月 10 日の発売を待つばかりとなった。

このソニーの新規格については当サイトのコラム「MD プレーヤーが EMD プレーヤーになる日 - ATRAC3 を巡る戦略 -」で一度述べている。4 月 18 日付けで掲載したこのコラムは結果的に予言めいたものになってしまったわけだが、殊更アピールする気はない。特ダネと言うほどの情報はまったく持っていなかったし、単純にカタログといくつかのリリースを眺めていれば思いつくことであり、同様のことを考えた人間は少なくないと考えている。

その上で、4 月時点でのコラムで予想した内容を検証することは無意味ではないだろう。

コラムを読み返してみると、大きく外れたのは実際の製品仕様に関する部分だ。

コラムでは接続インターフェースについて、OP i.LINK の採用を予想した。実際に採用された USB については「課題は転送速度とコネクタの大きさ」と指摘し、特に携帯型プレーヤーには採用しにくいと結論づけた。

この中で転送速度については単純に誤りを認めなければならぬ。USB の転送速度を遅いとしたが、実際には MD というメディアの書き込み速度を失念していた。MD の書き込み速度は 30KB/s 程度（MD の圧縮率は CD の 1/5 程度であるから、CD-R の等倍書き込み速度 150KB/s の 1/5 と計算できる）であり、1.5MB/s の USB からすれば十分であった。今回発表された製品群では、USB 経由の書き込み速度は通常の書き込みの 30 倍速（LP4 モード）と謳っている。転送速度がそのまま書き込み速度に反映されるわけではないから、かなり割り引いた数字にはなっている。

また、コネクタの大きさについては、携帯型プレーヤーにおいて最近の MD プレーヤーで流行となっているクレードルを採用することによって解決している。少しでも小さく軽くしたい本体に USB コネクタを搭載することは難しいと考えての予想だったが、それをクレードルに収めることによって本体のデザ

インに影響を与えることなく小型のパッケージを完成させている。クレードルに関しては Palm や携帯電話の印象が強いのだが、昨年頃からデジタルカメラなどでも採用され始め、MD プレーヤーに関しても今年の初め頃から充電スタンドの名称で採用されていたようだ。

そうした傾向を見通していたことは今後の反省の材料としたい。

さて、実際に新しい規格と製品が発表されたところで今後の展開について考えてみたい。

といっても、ソニーの発表を見る限り、4 月のコラムで述べたソニーの戦略は外れていないように思える。要するに MD プレーヤーの振りをした EMD プレーヤーの早急な普及と、それに伴う主導権の確保だ。

現在の EMD プレーヤーに対して短所と指摘されている内、メディアの価格については NetMD が解決する。しかもまったく新しいメディアではなく、既に町中に溢れているものを利用するのだからユーザーには親しみやすい入手も容易となっている。

また、EMD プレーヤーの著作権保護の仕組みについて煩わしいとの指摘もよく見かけるが、従来の MD も孫コピーができないといった制限はあり、その意味では何ら変わることはなく、一般のユーザーからすれば PC を接続できる新しい MD として普通に使うことができる。

さらに、NetMD ならではの新しい機能についても EMD 対応と言うだけでなく、アーティストや楽曲名の入力・表示に全角の漢字、ひらがなが使えるなど、より一般ユーザーにアピールする部分がある。一般ユーザーへのアピールにはこうした分かりやすさが不可欠だ。これによって NetMD は既存の MD 製品と明確な差別化を打ち出すことができ、フラッシュメモリーカードの分野ではソニーと対抗しながら MD プレーヤーで高いシェアを上げている松下電器も追いつけざるを得ず、早晚 MD 製品はすべて NetMD 対応製品となることは確実だろう。

すなわち、NetMD により EMD 対応製品は、ユーザーがそれで EMD を利用するしなれば別にして（それは今の EMD 対応製品も変わらない）、市場が一気に数倍から数十倍に大きくなるわけだ。

一般ユーザーを NetMD で獲得できれば、

あとはその内の何割かがフラッシュメモリを使ったプレーヤーの利点に気付いてくれればそれでよい。利点とは転送速度かもしれないし、デザイン自由度かもしれない。NetMDプレーヤーは決してMDメディアより小さくならないため、フラッシュメモリを利用する利点は少なくない。

その意味ではNetMDという比較対照ができることによって、EMDプレーヤーはようやくオーディオ機器と同じ土俵に乗ると言える。そこではオーディオ機器としての使い勝手がクローズアップされ、今以上に厳しい注文が付けられると共に、それに応じた改善が施されていくだろう。そうした中でフラッシュメモリプレーヤーがそのメリットをユーザーに上手くアピールできれば市場は緩やかに置き換わっていく可能性がある。その際にNetMDと多くの点で共通性のあるメモリースティックが有利であることは言うまでもない。

他にもNetMDの出現によって苦戦が予想されるものもある。

例えば、MP3-CDプレーヤーだ。メディアの安さと自由度から大きく販売数量を伸ばしているMP3-CDプレーヤーだが、NetMDの出現によって、そのメリットは弱くなるだろう。

大きさ一つとっても、据置型や車載型のプレーヤーにおまけの機能として付いている分にはともかく、携帯型の市場ではCD-Rメディアの大きさが弱点となる。8cmのCD-Rメディアに対応する製品も登場しているが、MDと比べられるレベルには達していない。

また、その自由度に関してもMP3を記録したCD-RがMP3-CDプレーヤーでないと再生できないの比べ、NetMDは既存のMDLPと互換性があり、友人との貸し借りなども簡単に行うことができる。

もちろん、記録できる容量で言えばCD-Rの方が大きいし、記録する機器の数で言えば既に多くのCD-Rドライブが世の中に出ているため、一気に市場が縮小することはないだろう。ただ、NetMD対応製品はPCの周辺機器として記録装置として利用することもできるわけで、普及台数がそのままCD-RドライブからPCプラットフォーム上で音楽ファイルを保存するという用途を奪うことになる。

また、デザインを初めとする製品の完成度といった面からも、競争相手が日本の大手メーカーが手がけるNetMD製品となるだけ

に、これまでのように安がるか悪がるかといったMP3-CDプレーヤーの海外メーカー製品は受け入れられなくなっていくと予想される。

もう一つ影響が懸念されるのがKIOSK端末だ。

音楽配信について語る場合、その販売方法の一つとしてKIOSK端末は必ず取り上げられていく。

現在、KIOSK端末経由の音楽配信には下記の表にある4つのサービスがある。ご覧いただける通り、いずれもMDを記録媒体としている。よりユーザーに親しみやすいメディアを使い、人の多く集まる場所に設置することで音楽配信サービスの普及を促そうという戦略が見て取れる。

またインターネットビジネスが盛り上がってきた頃、特にeコマースについては既存ビジネスへの影響について多く語られた。音楽配信サービスで言えば、既存レコード店への

影響が大きな脅威として語られた。その反発を和らげ、既存のレコード業界の構図を崩さずに音楽配信サービスを提供するものとしてKIOSK端末が位置付けられていたという背景もある。

しかし、状況は大きく変わってしまった。インターネットインフラ環境が貧しい状況では設置場所に高速回線を敷設したKIOSK端末でなければ音楽配信サービスを楽しむことはできないと言われていた。

ところが、コンビニやレコード店、駅などのKIOSK端末設置場所に高速回線を敷設するのと同じタイミングで一般家庭にもブロードバンド環境がやってきてしまった。特にADSL回線は2001年末までに契約数が100万を越えたとされ、CATVなども含めると200万世帯がブロードバンド環境にある。政策としても打ち出されたこの傾向は今後も続く予想され、音楽配信サービスは一般家庭内で楽しむことができる環境が整いつつあ

KIOSK 端末による音楽配信サービス

企業名	デジキューブ	ブイシंक	メディアラヴ	JR 東日本 / 日本テレコム
サービス名称	DCI デジタルコンテンツターミナル)	MUSIC POD	Music Deli	Digi-Break
記録媒体	MD	MD	MD	MD
主な端末設置場所 (フランチャイズ)	サークルケイ・ジャパン サンクスアンドアソシエイツ スリーエフ ミニストップ「e タワー」 ミックスキューブターミナル デイリーヤマザキ オートボックスセブン 関西スーパーマーケット ジョナサン ベスト電器 ミヤコ ワルツ堂 音楽堂 恵比須堂 黒木書店 十字屋 松木屋 普及音楽器 文具堂	そうご電器 イエローハット ジョイスサウンド 山野楽器 サンクスアンドアソシエイツ エイデン ツクモ電機 ダンシングペア 三洋堂書店 恵比須堂	オートボックス Disc Station disk union HMV JOY MAX SOUND 1st エイデン ケーズデンキ DEAS ココストア すみや スリーエフ そうご電器 ベスト電器 ミヤコ 山野楽器 上新電機 デオデオ 第一興商 BOOK BOXグループ	渋谷駅 新宿駅 池袋駅
コンテンツ提供先	ファミリーマート「Famiポート」 トヨタ自動車ガス事業部 「G タワー」	JEUGIA 新屋堂 WAVE TSUTAYA ヤマギワソフト 石丸電気	セブンイレブンジャパン 「セブンナビ」	

(音楽配信関連情報サービス調べ)

る。

さらに NetMD の登場で、KIOSK 端末のアドバンテージであったメディアの親しみやすさも一般家庭内に入り込んできたことになる。ソニーが開発中としている NetMD ドライブ搭載の新「VAIO MX」などは KIOSK 端末そのものが家庭内にやってきたようなものだ。KIOSK 端末の中にはアーティスト写真やジャケットが印刷できるものがあるが、PC 用の家庭向けプリンタでも同じことは十分にできる。

各家庭に KIOSK 端末と同じ機能を持つものがあり、同様に使えるのであれば、人はコンビニや駅にすらその目的で足を運ぶことはないだろう。また、KIOSK 端末といえど、MD への書き込みは 4 倍速で 1 人当たりの操作時間は意外に長い。人の出入りが激しい場所での長時間の占有が憚れるといった心理も働くと考えられる。

また、インターネットビジネス、e コマースに関する考え方が大きく変化した。インターネット専門の事業者はそのブランドを消費者に伝えるコスト、すなわち巨大な広告費の前に次々と敗れていった。逆にインターネットにより大打撃を受けるとされていた既存ビジネスは再評価され、特に小売りビジネスに於いては「クリック・アンド・モルタル」といったフレーズで説明されるように既存ビジネスで培ったブランドと信頼がインターネットの世界でも有効であることが明らかとなった。つまり、音楽配信サービスは既存レコード店を脅かすものではなく、新たなサービスの一つとして考えられるようになった。

それに対応するように音楽配信サービス業者は次々と e-tailer と呼ばれるユーザーを多く引きつけているサイトに対するサービスを提供し始めており、いくつかのチェーン店は積極的に自社サイトでのサービス展開を図っている。

このような状況の変化の中で、言ってみれば新「バイオ MX」程度の機能しかない高価な KIOSK 端末を音楽配信サービスだけで展開することは困難といわざるを得ない。極端に言えば、KIOSK 端末を導入したいと考えていた店なり場所なりも新「バイオ MX」を置くだけで十分であり、その場所もコンビニや駅やレコード店ではなく、ネットカフェの方が適当かもしれない。もちろん、そこには課金や信頼性などの問題はあるとは言え、それだけが KIOSK 端末の存在意義と捉えるこ

とはやはり難しいと言わざるを得ない。

ともあれ、2002 年の EMD 環境は NetMD を中心に動いていくことは間違いないだろう。ただ、それは EMD に関するあらゆるものが NetMD、もしくはその開発者であるソニーの規格や製品一色になると言うことではない。

対抗するフラッシュメモリカードも当然残るだろうし、逆にその利点をアピールする絶好の機会であるということもできる。それをサポートする新しい技術やビジネスのアイデアも生まれることだろう。そのいずれもが NetMD を意識することになるだろうということだ。

まったく新しいものや遠い目標に向かうには大きな原動力を必要とするが、明確な相手に対してより良いものを生み出そうという力はとても分かりやすい。EMD ビジネス全体を向上させるためにも、ソニーを初めとする各社には更なる力を期待せずにはいられない。

(2001/9/27、日夏雄高)

EMD Magazine 第 5 号

発行 2001 年 10 月 1 日

発行所 音楽配信関連情報サービス

責任編集 宮腰 温

レイアウト 株式会社アイビルダース